授業日　１１月１４日（火）５・６時間目

学習目標

「探究活動のまとめ【２】」

探究活動の基本的なスタンスを確認する

一つ上の次元から対象を見おろす見方を身につける（２）

…　最終レポート作成に向けて　…

授業内容

◇　探究活動の基本的なアプローチ法を振り返る

前時の最後に学習した「批判的」（クリティカル）なものの見方を具体化する

「批判的」なものの見方をするための第一歩は、

権威（authority）と常識（common sense）を疑う（懐疑的になる）こと

◇　上記のアプローチ法をもう少しくだけた言い方で表現すると

［斜］に構える　（『集英社国語事典』第二版）

①刀などを斜めに構える

②まともに対処しないで、皮肉や遊びの態度で臨む。

◇　文学作品（小説）における同様の表現を学習する

「裁かぬことによって裁かれたことになる好都合な連中」（安部公房『棒』）

「愚問に対しては愚答こそが正解なんだから」（清水義範『国語入試問題必勝法』）

◇　１年半探究を続けてきた者として、探究の粋たるノーベル賞について学習する

「２１世紀に入って１５年間の自然科学３部門、生理学･医学賞、物理学賞、化学賞のノーベル賞受賞者は、１３名に達する。アメリカの５７名に次いで２位である」

（黒木登志夫『研究不正』2016年4月）

◇　探究の粋の対極にある研究不正について学習する

「研究活動の不正行為」の定義を確認する

①捏造（ねつぞう）　②改竄（かいざん）　③盗用（とうよう）

（文部科学省「研究活動の不正行為への対応のガイドラインについて」

『研究活動の不正行為に関する特別委員会報告書』2006年8月8日）

◇　有名な研究不正について学習する

ＳＴＡＰ細胞論文不正事件（小保方晴子・2014年1月）

旧石器捏造事件（藤村新一・2000年11月）

評価方法

◇　批判的なものの見方を自意識を持って身につけ、物事の光と陰（表面と裏面）を意識しながら自分の言葉で評価できているか。

宿題指示

◇　ワークシート④を、研究（探究）の光と陰を意識しながら完成させる。